

文部科学省 情報ひろば 『サイエンスカフェ』

主催：日本学術会議、文部科学省

参加無料です

毎月第4金曜日の夜にサイエンスカフェを定期開催しています。
平成22年度・第9回を、次のとおり開催いたしますので、テーマに少しでもご興味がありましたら、お気軽にご参加ください。

日 時 平成22年12月17日（金） 19：00～20：30
場 所 文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）
主 催 日本学術会議、文部科学省
講 師 麻生 武志（東京医科歯科大学名誉教授）
ファシリテーター 本田 孔士（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）
テーマ 「生殖医療の最前線：体外受精・胚移植療法をめぐって」
定 員 30名
参加費 無 料

生殖：Reproduction は、生物が自己の分身を後世に残すために営まれる。そのためには精子と卵子が不可欠であり、この両者が出会い受精することが妊娠の成立につながる最初のステップである。不妊症の中でこの段階まで進めない場合の治療法として、体外受精・胚移植療法が開発された。この治療法を開発・確立し、最初の妊娠出産例をもたらした医療チームの一人が 2010 年度ノーベル賞を受賞するロバート・エドワード博士である。



本療法では、成熟した卵子を体外に取り出し、培養液内で処理された精子と受精させ、一定の段階まで生育した分割卵を子宮の中へ挿入し着床させる方法が行われる。当初、精子と受精卵の通路であり、かつ初期発生のある卵管に障害がある症例に対する治療法であったが、今日では精子が卵へ侵入できない場合に顕微授精と組み合わせる方法などで治療対象が拡大している。また、本療法で移植されなかった胚から得られた胚性幹細胞（ES細胞）による再生医療の開発も行われた。一方、非生理的なプロセスを含む本療法の長期予後や生命倫理面での問題など、いまだ検討すべき課題が残されている。